

行政視察報告

委員会名	建設環境委員会		
視察日	令和6年5月13日（月）		
視察先	北海道石狩市		
視察委員	うてな 英 明 委員長 伊藤 よしのり 委員 中 村 けいこ 委員	安西 まさのぶ 副委員長 岩田 よしかず 委員 木 村 ひでこ 委員	秋 本 とよえ 委員 下山 しんいち 委員 夏 目 佳代子 委員

調査項目	ゼロカーボンシティ達成に向けた取組について
事業概要	石狩市は、脱炭素社会の達成に向け、電力消費に伴うCO₂排出実質ゼロの実現に向けた先進的な取組を行う「脱炭素先行地域（第1回）」に環境省から選定されている。 公用車のEV化や車両に供給する電力の脱炭素化、再生可能エネルギーを活用した新たな公共交通等を検討し、地域課題の解決を図っている。また、公共施設に太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入するなど公共施設から脱炭素化を図っている。
視察内容	石狩市地球温暖化対策推進計画 区域施策編（市域全体）令和6年3月改定 計画期間：令和3～12年度 温室効果ガス削減目標 H25（基準）排出量 616千t-CO₂（10.2千t-CO₂/人） →R12 排出目標 325千t-CO₂（48%削減） ・石狩市オフセット・クレジット（いしかりJ-VER） 市有林整備によるCO₂吸収量をクレジット化 1,803t 販売収入：環境分野の施策に活用 ・「デコ活」の周知 省エネエアコン補助、町内会回覧、庁内メール、市内イベント出展による啓発、巡回パネル展など ・ナッジを活用した行動変容の働きかけ 市内リサイクルボックスに感謝メッセージを掲示 ・エネルギー関連施策 「グリーン水素」を地域で製造し活用する仕組みの検討 事務事業編 令和6年3月改定 計画期間：令和3～7年度 温室効果ガス削減目標 H25（基準）排出量 19,678t-CO₂ →R12 排出目標 9,839t-CO₂（50%削減） ・公共施設の照明LED化（R3～4年度） 公共施設（143箇所）の照明をLED化 ・公用車の次世代化（EV等への転換） ・グリーン購入方針の改定 ・環境配慮契約（電力）方針の改定 ・公共施設における再エネ導入ポテンシャル調査事業 ・再生可能エネルギーの地産地活に関する連携協定 ・厚田区マイクログリッドシステム
主な質疑内容	（問）マイクログリッドシステムについて、エリア内全ての施設の全ての電力を賄えているのか。 （答）基本的には災害時を想定している。 （問）グリーン水素について早急に取組を進める考えはあるか。 （答）事業者が少なかったり、運搬のコストなど課題が多いと認識している。 （問）太陽光パネルについて、将来的に発生しうる予算としてどの程度想定しているのか。 （答）自己所有かPPAとするかは議論が必要だと思う。廃棄の費用までは想定して事業構築すべきと考える。

行政視察報告

委員会名	建設環境委員会				
視察日	令和6年5月14日（火）				
視察先	北海道恵庭市				
視察委員	うてな 英 明 委員長	安西 まさのぶ 副委員長	秋 本 とよえ 委員		
	伊藤 よしのり 委員	岩田 よしかず 委員	下山 しんいち 委員		
	中 村 けいこ 委員	木 村 ひでこ 委員	夏 目 佳代子 委員		

調査項目	全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道）について				
事業概要	全国都市緑化フェアは国民一人一人が緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として、昭和58年から毎年、全国各地で開催されている花と緑の祭典である。 令和4年6月25日から7月24日までの30日間、第39回全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道2022）が恵庭市をメイン会場に開催された。				
視察内容	名称：第39回全国都市緑化北海道フェア 愛称：ガーデンフェスタ北海道2022 開催テーマ：花と緑～恵みの庭を人がつなげる北の大地から。 主催者：北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構 提唱：国土交通省 実行組織：第39回全国都市緑化北海道フェア実行委員会 開催期間：令和4年6月25日（土）～7月24日（日） 30日間（9：30～17：30） 会場：メイン会場 花の拠点・中島公園、隣接する河川空間及びまちなか会場 ＜市内の花のまちづくりの活動地域＞ 協賛会場 道内の国営・道立・民間庭園等 32会場 スポット会場 道内の市町村がおすすめする花や緑のスポット 20か所 事業費：おおむね7億円 植物調達 基本構想や基本計画に基づき植栽設計を行った。 ①花の拠点「はなふる」中央芝生広場 ②市民参加花壇 北海道鉢花生産組合、恵庭市花苗生産組合、北海道緑生会、北海道植物株式会社、株式会社阿部花園、株式会社新生園芸で構成される「ガーデンフェスタ北海道2022植物調達協議会」から調達した。調達した植物約200種、約80,000株のうち、約96%は北海道内の花苗生産者により育成された。 「ガーデンフェスタ北海道2022植物調達協議会」は、当フェアに対し良質な植物の生産及び供給、供給管理を通じ今後の北海道内の花き／緑化産業の更なる活性化を図ることを目的に道内の花苗や緑生生産・市場・卸を担う業者により2021年2月に構成された組織である。				
主な質疑内容	（問）オープンガーデンについて、住民の参画をどのように促したのか。 （答）ルールを作成にマナーの悪い人への対策を講じた上で、オープンガーデンをまわるツアーを実施した。 （問）ボランティアはどのように募集したのか （答）近隣市町村の役所、商工会議所を通じて行った。 1,000円分のクオカードを謝礼としてお渡しした。 （問）公園や商業施設などが一体となっているが、所管部署は分かれているのか。 （答）公園も含めて経済部 花と緑・観光課が所管部署である。				

行政視察報告

委員会名	建設環境委員会		
視察日	令和6年5月15日（水）		
視察先	北海道北広島市		
視察委員	うてな 英 明 委員長 下山 しんいち 委員	秋 本 とよえ 委員 中 村 けいこ 委員	岩田 よしかず 委員 木 村 ひでこ 委員

調査項目	北海道ボールパークFビレッジ周辺緑地の整備について（現地視察）
事業概要・視察内容	北広島市では、北広島市ボールパーク周辺緑地の利活用について北広島市ボールパーク周辺緑地利活用懇談会を開催し、検討している。 令和5年度には、都市公園の整備として北海道ボールパークFビレッジ周辺緑地の整備について予算計上され、整備事業が進められている。 利活用とは 緑地における利活用とは、教育や学習の場としての利用、農業や園芸としての活動、エコツーリズムの促進、地域社会における潤いをもたらす場などが挙げられる。 利活用の目的は、良好な自然環境の中で人々の健康や福祉を向上させ、社会的・経済的なメリットをもたらすこと。 保全とは 緑地における保全とは、その豊かな自然環境や生態系、生物の多様性を守り維持していくこと。 緑地の自然資源や景観の保全、生物や植物の保全の目的は将来の世代に渡って持続可能な自然環境を提供すること。 令和5年度 環境調査 植物調査 事業地周辺における植物調査を行い、生育する種を記録します。重要種や特定外来生物を確認した場合には、位置と生育状況等を記録します。重要種を確認した場合には、移植など保全措置を検討・実施します。 春季・夏季の2回実施します。 両生類調査 事業地周辺における両生類調査を行い、目撃、捕獲による成体・幼生・卵の確認を行います。重要種や特定外来生物を確認した場合には、位置と生育状況等を記録します。重要種を確認した場合には、移植など保全措置を検討・実施します。 調査は、春季の1回実施します。 （第2回 北広島市ボールパーク周辺緑地利活用懇談会資料から抜粋）